

令和6年度 府立聾学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・**実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p><学校目標></p> <p>夢・可能性・生きぬく力</p> <p><教育目標> 人と向き合い、社会とつながりながら自ら考え、伝え、行動する幼児及び児童生徒の育成</p> <p>(1) 夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自らの未来を見通し切り拓く力を育む。</p> <p>(2) 高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自分らしくこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。</p> <p>(3) 目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦しやり抜く意志と健康でたくましく生きる力を育む。</p> <p>(4) 礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、人や社会と積極的に関わりながら共生する力を身につけ、次代を支える人間を育成する。</p> <p>(5) 自然や文化を学び、愛し、大切にすることを育てる。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の法の位置づけが5類に移行後も、教育活動実施にあたり基本的な感染症対策を続け、校内での感染拡大はなかった。 校内外の研修の機会が増え、指導者のICT機器の利活用が進んだ。 学部を超えた指導体制の工夫により、指導の充実に取り組めた。 ホームページの更新、学校だよりの紙面刷新等に取り組み、発信力を高めることができた。 対面が増え、オンラインも活用しながら地域のニーズに応える相談支援に取り組めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き感染症対策を継続しながら、幼児児童生徒への学習保障等を見極めながら教育活動を計画・実行する。 ICTの悉皆・選択研修や校内の研修などで教員の研修が進んだが、教員のICT活用のスキルや意識をさらに向上させるための機会提供を進める。 運営会議等で教育課程・教科学習の連続性、「魅力ある学校づくり」等について課題を共有し検討を行った。今後は学校が一体となって取り組む。 Teams等の活用による校務DX化に努める。 広報活動の発信方法や内容を工夫し、より聾学校の魅力を発信する。 教職員の専門性の向上について、担当者任せになっているところが大きい。学校全体での取組を具体化する。 自立活動について、学部での違いがあり学部ごとの取組で終わった。 	<p>1 全教職員による安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心して学べる教育環境を維持し、様々な教育活動の展開 ○避難訓練や防災学習、日々の安全指導の計画的な取組及び連絡・連携の強化 ○安心・安全な給食・舎食の実施や校内環境の整備 <p>2 学びの追求 可能性を引き出す・伸ばす授業や活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語力を保障する授業、多様な学び、個別最適・協働的な学び、特色のある学び ○「想像」と「創造」のある授業 ○全校研「伝える力」の追究 ○「思考」「伝える・行動」「再考」「伝える・行動」のサイクルを通して、深く考える・やり抜く経験の蓄積 ○自立活動の指導のねらい・内容の共有と系統性の追求(学部をつなぐ) ○ICT機器を活かした授業(多様な学び、他校・関係機関との共同的な学び・集団、DX研修の受講等) ○様々なコミュニケーションスキル及び専門性の向上(手話等の技術向上、発音・発語及び教育オーディオロジーに関する研修) <p>3 魅力ある取組の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページや学校だよりによる魅力ある取組の発信 ○校内外における発信の内容や方法の工夫(生徒等が能動的に活動する取組、部活動、PTA活動の発信) <p>4 地域のニーズに応じた支援・相談の実施と関係機関と連携したセンター的機能の充実・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ○府内(北部・本校・南部)3つの聴覚支援センターの連携強化 ○早期発見・早期支援に係る関係機関や行政との連携・協働 ○巡回相談等による地域や個々のニーズに応じた相談支援の実施 ○指導者の研修・支援、専門的力量的向上

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
1 組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に基づいた組織的・計画的な学校運営を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の重点と連動した学部・分掌等の具体的な活動計画を策定する。 中間評価を取り入れたPDCAサイクルによる経営を進める。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやホームページをさらに見やすく、取組がわかりやすくした。 衛生委員会の活動等によって、全体的に働き方改革に対する意識がさらに高まってきた。 全校の会議や研修会を集合型で行い、グループ討議を設定するなど学部を越えて集まる機会をつくった。 PTA総会と全校参観日を同一日に実施した。PTA役員会を月1回行い、活動を継続できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き業務を精選し、教職員が心身ともに健康で教育活動を進められるようにする。 児童生徒及び保護者アンケートの評価を学校経営に活かしていない。
		<ul style="list-style-type: none"> ホームページや学校だより、生徒等が能動的に活動する取組、部活動、PTA活動等を発信する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教職員が心身の健康を大切にする。同僚の心身の健康を気遣いチームとして実践できる職場環境を形成する。(業務の見直し、時間外勤務の縮減) 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒及び保護者アンケート、関係機関による評価を学校経営に生かす。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 保護者、児童等から信頼される学校であるために教職員に対する必要な研修を行う。 保護者・PTAと一体となった学校づくりを進める。(PTAとの連携による全校参観日や保護者学習会等の計画) 	B	
2 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教科学習等における学部間の連携や指導体制の工夫に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部間の連携や指導内容・方法、3観点による評価の改善に取り組むために、学部を越えた指導体制や教科担当者会等(幼小、中高または学校全体)をもつ。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小、中、高等部間で学部を超えた教科の指導を実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も幼児児童生徒の実態や諸条件を考えあわせて対応する。 学部間の連続性を意識して教育課程を編成する。
		<ul style="list-style-type: none"> 初等・中等教育における考え方を共有する。 	B	
3 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 「想像と創造」が見える授業改善に取り組む 伝えあい・学びあう学びの追求 自立活動等の指導の充実を図る。 ICT機器を積極的に活用し、学習効果を高める。 個に応じた教育を推進し、基礎学力の充実・向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部と各学部研究組織が連動して、全校研テーマを踏まえ、各学部の授業公開週間を実施して、評価・助言し合うことで指導の充実を図る。 日々の授業において、多くを想像することと、仲間と対話しながら創造する学習や活動が見える授業について研究する。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学部で授業公開週間を設定・実施し、研究テーマについて全校研修が実施できた。 授業において小中学部でロイロノート、高等部を中心にTeamsの活用が進んだ。 タブレット端末の利活用が進み、児童生徒の日常的な即時的フィードバックや共同考察ができることで授業改善や交流及び共同学習の充実につながった。 DX研修を受講し、職員の授業準備にもタブレット端末を活用して業務改善にもつながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、授業公開など開催方法や振り返りをより意図的に進める。 ICT機器の、授業等のねらいに沿った効果的な活用を進める。
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活を見通し、キャリア教育の視点に立ち自立活動の指導を系統的に行う。(幼児児童生徒一人一人に応じたソーシャルスキルを考える) 聴能言語室と学部との連携を推進する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に基づく授業を行う。 ICT機器を活かした授業 多様な学び、他校・関係機関との共同的な学びに取り組む。 教職員のスキル向上のため全ての教員が研修を受講し、組織的にサポートを行う。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害の状態とその他の障害や資質・能力・特性の適切なアセスメントにより指導の手立てを工夫し実践する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用を促し、本、新聞、ネット等を活用して児童生徒の探究意欲を高める。 	B	
4 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 集団や社会の一員としての資質を身につけた主体的・自主的な児童等の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会・生徒会活動を通して、児童等に自主性・主体性やリーダーシップなどが育つよう適切な指導や手立てを行う。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育大会の時期を大きく変え取り組んだ。短い期間の中でも児童生徒がリーダーとして活動する取組ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き児童生徒が行事に主体的に取り組めるような活動を進める。
		<ul style="list-style-type: none"> 行事等において対話的な活動を取り入れ、人を思いやり助け合いながら、自主的意欲的に参加する力を高める。 	A	
5 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係の育成と個性の伸長に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の可能性を信じ、憧れや目標を持たせながら失敗を恐れず挑戦し、やり抜く経験を通して自己肯定感を高める。(思考・行動・再考・行動のサイクル) 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部で児童生徒の自己肯定感や達成感を意識した指導に取り組み、成果を上げることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 非行や問題行動、いじめなど気になる情報を共有し、迅速かつ組織的な対応を行う。 	B	

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には「聴く」姿勢で対応する。必要に応じて関係分掌と緊密に連携する。 	B	B	【課題】 ・幼児児童生徒、保護者の受け止めに配慮して丁寧に対応する。
6 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点を重視し、各段階でのキャリア発達を促す指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得など、必要な情報を幅広く収集整理し、取得推進を図る。 ・進路学習や職場体験を通して、「働きたい」と思う動機づけと自発的意欲を高める。 ・希望する進路の実現に向け勤労観・職業観等の指導を計画的・系統的に行う。 ・進路状況の変化に対応した指導とアフターケアの充実を図る。 ・卒業後の自立と社会参加の姿を見通した指導のための全校研修会に取り組み、共通理解を図る（1回/年）。 	B	B	【成果】 ・実習等を家庭、関係機関等との連携によって実施し、全校で進路指導について共通理解をしながら進めることができた。 【課題】 ・引き続き卒業生の就労や生活の状況の把握、進路指導の課題等について全校で研修する。
7 人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題を正しく理解し、解決に向けて行動できる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりの人権意識を高め、人権教育の推進に向け校内研修を行う。（1回） ・人権に関する教材づくりに取り組み、児童等の実態に応じた人権学習を年間指導計画に基づき実施する。 	B	B	【成果】 ・全校研修会で、京都府や国全体の人権に関わる諸課題や取り組み視点を学んだ。 【課題】 ・引き続き人権に配慮した指導を普段から意識して進める。
8 健康・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童等の心身の健康状態を把握し、その保持増進を図る。 ・児童等の実態に応じて健康・安全教育を進める。 ・児童等の実態に応じて食育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき、定期健康診断・保健調査及び日々の健康観察を充実させて、心身の健康状況を的確に把握する。（未受診者、健康状況が気になる者への家庭連絡等） ・医療専門職派遣事業を活用した障害や特性、疾病等に関する研修に取り組み、適切に対応する力を高める。 ・保健指導及び保健学習を通じて心身の健康に関する認識を高め、家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着を図る。 ・年齢及び発達の段階に応じて、性に関する知識の学習を計画的に行う。 ・アレルギーの実態を把握しアレルギーに関する知識を学習し、正しい判断力と行動力を養う取組を進める。（全校研1回、緊急時対応訓練1回） ・給食指導を通じて、望ましい食生活の形成を促す。 ・食に関する指導の全体計画を下に、各学部の取組を実施する。 	B	B	【成果】 ・校医の協力を得て感染症対策を行い、計画どおりに健康診断等を実施することができた。 ・各学部において、医療専門職派遣事業を活用した研修に取り組み、日々の指導や保護者との連携に生かすことができた。 ・精神科学校医、スクールカウンセラーの活用により、子ども・保護者の安心につながる機会を提供できた。 ・家庭・学校医と連携して、中学部でも希望者に「フッ化物洗口」の取組を始めた。 【課題】 ・校内委員会を中心に、アレルギー、医療的ケアなどの対応と準備を進める。
9 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性と教育的指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを高めるためにセンター研修等、各種研究会を積極的に活用する。併せて校内の新たな研究・研修体制を検討する。 ・手話や発音・発語や教育オーディオロジーに関する研究会を開催し、新転任者等の専門性や指導力の向上に取り組む。 	B	B	【成果】 ・昨年度に続き、ICT悉皆研修・選択研修も受講者が多数あり、スキル等の向上につながった。 ・開催方法を工夫し校内の手話研や聴能研に取り組み始めた。 ・次年度からの研究体制についてプロジェクト会議と関係部署が連携して検討・共通理解を進めた。 【課題】 ・引き続きICT活用に関する研修などの研修受講を進める。 ・専門性を高めるため、センター研修や各種研修に参加する。
10 学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な予算執行の下、学習に必要な施設や機器の整備を行う。 	B	B	【成果】 ・教員用タブレット端末など、引き続きICT機器を中心とした学習環境の整備が進んだ。 【課題】 ・Teamsをさらに活用して、会議やペーパーレス化などを積極的に行い、教育予算を確保する。備品の要望段階、予算執行段階ともに情報共有を進める。
11 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理システムの整備充実と活用力をつけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、火災及び地震等の避難訓練、救命救急訓練、土砂災害緊急避難訓練を実施する。 ・危機管理マニュアルに基づく実践力を身につけるために、初期消火訓練を実施する。 	A	B	【成果】 ・火災や地震など場面を想定して、学期に1回避難訓練や初期消火訓

	る。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を行い、校内の安全を確保する。(毎月) 家庭・地域社会と連携し、登下校の安全を確保する。 個人情報の取り扱いやセキュリティー等への理解を深め、適切に対応する。 	B	B	<p>練を実施した。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校の安全について、保護者に適切に情報提供をする。 個人情報の取り扱いについて、児童生徒、教職員、保護者等の情報モラルとセキュリティーに関する意識を引き続き向上させる。
12	家庭・地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教育的ニーズに対応できるよう関係機関との連携を深める。 近隣園・校や居住地園・校との交流及び共同学習や、地域での体験学習をとおして、幼児児童生徒の学びの場や機会を広げる。 	B	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接的な交流及び共同学習の機会も増え、タブレット端末・オンラインの活用の併用で充実させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会とPTAの連携で、委員の方々の専門性を活かした学習会を開催する。
13	センター的機能	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児児童生徒に対して早期教育・進路相談などの適切な支援を行う。 北部・本校・南部の3つのセンターの連携を強化し、支援・相談、研修会の充実・発展をめざす。 聴覚障害教育に関する情報、啓発活動及び教材の提供等を行う。 医療・福祉・教育等の関係者機関と地域連携協議会や合同研究会を行う。 	A	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き関係諸機関とのカンファレンスの開催や日々の連携で、支援の充実や専門性の向上を図ることができた。 公開講座を実施し、日常の指導等の情報交換ができた。 南部センターと連携し教育相談等地域への支援を進めた。 地域で学ぶ聴覚障害児童の集いとして「地域学校」を開催できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き本校と南部センターの円滑な連携を進める。

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は時間外勤務時間縮減だけを目的とせず、より豊かな教育を提供するために教職員のエネルギーを注げるように進めてほしい。 学校の魅力の発信は、活動を知らせるほかに、響学校の教育に魅力を感じて「ここで学ばせたい」と思えるような内容が必要。幼稚園から高等部まで「このようなことができるようになる」というテーマ性のある内容がよいと思う。発信の方法は、個人情報保護を慎重に対策しながらより広く広報できるものを検討するとよい。 避難訓練など防災の取組に、登下校時の防犯についても家庭と協働で教えることが必要と思う。 聴覚障害の子どもの理解とコミュニケーションについて教職員が学んでほしい一方で、聴覚障害の子どものために健聴者のことを理解することも必要。たとえば進路学習で、当事者が職場で困ったことを体験として伝えるような機会があればよいと思う。
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<p>＜学校づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き健康・安全、教育効果を考えた教育活動を計画・実行を進める。 避難訓練などの防災学習、不審者対応など、日々の安全指導をより一層意識的に取り組む。非常時に備え地域との連絡・連携を再確認する。 「働き方改革」を一層すすめ、校務DX化と並行して業務分担等の見直しを行う。伴って校内ネットワーク担当者の育成に取り組む。 <p>＜授業改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい研究体制のもとで全校テーマに沿って各部署での研究を進める 授業のねらいに結びついた効果的なICT機器の活用のために、校内外の研修に取り組み、教職員一人一人のICT活用能力を高める。 自立活動の指導を学校全体として系統的に行うための校内の連携、研究・研修を進める。 子どもたちの地域での生活を豊かにするために、自立活動や各教科、特別活動などで様々なコミュニケーション方法の学習や意見発表の場を設ける。 手話や教育オーディオロジックをはじめとした専門研修を計画的に実施し、学校全体としての専門性の維持・向上に取り組む。 <p>＜響学校の魅力の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域等の評価も踏まえて、従来のホームページや学校紹介パンフレット、学校紹介動画の充実に加えて、新たな発信方法を試行する。 <p>＜センター的機能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き南部センターとの協働により、保護者や地域のニーズに応える継続的な教育相談や啓発活動に取り組む。 地域支援に関わる担当者の育成を進める。
-----------------------	--